

# 日本日中関係学会のご案内

(2020年版)



題字「日中関係」 揮毫 初代会長・中江要介

## 日本日中関係学会とは？

### 21世紀の日中関係を考えるオープンフォーラム

- \* **誰でも参加できます**：学者、ビジネス、マスコミ、政治家、公務員、一般市民、学生、主婦など幅広い方々の参加をお待ちしています
- \* **自由に発言できます**：党派やイデオロギーにこだわりません。建設的など意見であれば、多いに歓迎します
- \* **中国の幅広い人々と交流していきます**：特定の組織や団体などにはこだわりません。出来るだけ多くの人々と率直に意見を交換していきます

#### <本部事務局>

〒101-0001 港区虎ノ門1-5-8 オフィス虎ノ門1ビル 8F 日本景徳鎮株式会社内

※お問い合わせはメールかファックスでお願いします。

E-mail：[nichu-kankei@g.email.ne.jp](mailto:nichu-kankei@g.email.ne.jp) Fax：03-3554-0421

#### <ホームページ「日中関係」>

<http://www.mmjp.or.jp/nichu-kankei/>

**巻頭言** (2020年2月6日発行ニュースレターより)

## 「中国をより正しく理解していくには」

日中関係学会副会長 林 千野

昨年5月の総会において副会長(事務局)を拝命致しました。当会の発展のために、微力ではございますが、力を尽くしていきたいと思っております。会員の皆さまにおかれましては、何卒ご支援いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

中国という国と接し、この国を理解しようと試みる時、尊敬する中国関係の大先輩が、だいぶ前に語られた忘れられない言葉があります。「中国を理解することは、まさに『群盲象を撫でるが如し』で、とても難しい。あるものは足を触り丸太のようだと言い、あるものは胴体に触れ壁のようだと言い、あるものは鼻を触って、長く、曲がりくねる棒のようだという。これらに偽りはないが、『象』という全体像を総体的にとらえているとは言い難い。」

先輩は続けて、「中国をより深く理解するためには、光があたる部分と、その陰に隠れた闇の部分等を等しく見定めることが大切。光が当たる部分が強くなればなるほど、その分だけ闇も深くなる。」更に、「私はこの視点で中国を理解しようと数十年来努めて来たが、この国を知ろうとすればするほど、わからなくなる。」と語りました。中国関係では知らない者がいないと言われる大先輩の、この率直な言葉は、今に至るまで深く私の胸に刻まれています。

わたし自身は80年代初めに中国に留学し、その後は仕事を通じて約40年間、ずっと中国という国と関わってきました。中国が改革開放に舵を切り、経済発展の道を歩み始めた直後から、天安門事件、SARSの流行、歴史問題、尖閣諸島などを契機とする日中関係の悪化、そして現在の米中覇権争いが起こるまでの紆余曲折や、その間の飛躍的経済発展に至る過程を、常に何らかの形で見続けてこれたことは、わたしにとって得難い、貴重な体験となっています。

こんにち、中国の躍進ぶりを見るにつけ、冒頭先輩の言葉の重みを折に触れて痛感します。約40年前、今の中国を誰が予測し得たでしょうか。ほんの僅かな賢人以外、大多数の人々は恐らく私と同様、想像すらし得なかったのではないのでしょうか。それほど中国を理解し、その未来を予測することは難しい。自分のつたない過去の経験・知識にのみ基づき、ステレオタイプの「中国はこうだ」と決めつけてしまうと、今の中国の真実の姿を見失ってしまう危うさを身に染みて感じます。

言い古された言葉ではありますが、中国は一衣帯水の隣国です。引越しの出来ないわたしたちの隣人が、今後どのような道を歩んでいくのか。日本の将来にも必然的に大きな影響を与えられられるこの問題を、一人の日本人として、真剣に、粘り強

く考えていく必要があると考えています。そして、日本日中関係学会が、今後ともさまざまな催しを通じ、会員のみなさまに対して中国をより正しく理解できるための材料を提供し、今後の日中関係について考え、理解を深めていく契機となれば、これに勝る喜びはありません。

### 会員数(2020年1月30日現在)

(単位:人)

	会員数				前理事会(2019.9.27)以降の増減			2019.9.27時 点の会員数
	個人	学生	法人	入会	退会	差し引き		
関東	310	245	60	5	19	3	16	294
東海	108	99	5	4	1	1	0	108
関西	92	79	13	0	0	0	0	92
合計	510	423	78	9	20	4	16	494

<日本日中関係学会 役員> 2019.5.18 改選、\*2019.9.27 新任 あいうえお順

会長(1名) 宮本雄二  
 副会長(5名) 全国 国吉澄夫 関東地区 加藤青延  
 東海地区 川村範行 関西地区 伊藤正一  
 事務局 林千野

理事(19名)

全国理事(3名) 金子秀敏、朱建栄、田中修  
 関東理事(3名) 杉本勝則、高久保豊、雷海涛  
 東海理事(3名) 加藤直人、納富義宝、早川元章  
 関西理事(2名) 三村正治、安井三吉  
 事務局(8名) 内田葉子、王玲、北原基彦、高山勇一、田島純一、橋本明德、  
 三村守、村上太輝夫

監事(2名) 江越眞、藤村幸義

顧問(8名) 青木俊一郎、五十嵐貞一、江原規由、大久保勲、金丸健二、  
 平沢健一、藤野文悟、安井信之

評議員(37名) 浅井正、池上隆介、王敏、大西義久、大野克美、岡川秀毅、  
 岡田実、岡野寿彦、小原道雄、勝尾修、金子肇、巖浩、小山雅久、蔡建国、  
 嶋原信治、周星、鈴木孝昌、高野知司(事務局)、\*田中匂一、谷本広志、  
 段躍中、遠志保、土屋康夫、露口洋介、徳田一彦、中島俊輔(事務局)、  
 長谷川鏝一、服部健治、原田泰浩、範雲涛、武小燕、方淑芬(事務局)、  
 星屋秀幸、真家陽一、村山義久、藪内正樹、結城佐織

(注) 顧問の川西重忠さんは2019年12月にご逝去

<組織>

部会・委員会	対外交流部会（常設） 部会長：林千野 政治経済部会（常設） 部会長：国吉澄夫 （部会の下に「中国ビジネス事情研究会」を設置。主幹事は平沢健一） 文化交流部会（常設） 部会長：加藤青延 青年交流部会 部会長：杉本勝則 副部会長：三村守、内田葉子 青年部長：方淑芬 宮本賞実行委員会 委員長：林千野 副委員長：伊藤正一、川村範行、国吉澄夫 村上太輝夫 委員：内田葉子、江越眞、高山勇一、 藤村幸義、方淑芬、三村守
--------	---